

リバティアカデミー 自己点検・評価報告書

1-1 理念・目的

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(理念・目的等) ○ センター等の理念・目的・教育目標とその適切性	・現状 リバティアカデミーは、本大学における教育・研究の成果を継続的・体系的学習プログラムとして、本大学の学生及び卒業生並びに広く社会一般に提供している。生涯にわたる継続的な学習の支援や、資格取得等職業能力の再開発及び向上を図るための教育活動を行うことにより、大学の開放及び生涯学習事業の推進に寄与することを目的としている。 ・長所 リバティアカデミーは学生から社会人まで幅広い世代の学びの場となっている。理念・目的からみて適切であるといえる。 ・問題点	
○ センター等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性	・現状 前期・後期の受講生募集のパンフレット(総合案内、ビジネスプログラム、資格・実務・語学講座)やリバティアカデミー公式 Web サイト「Knowledge Café」、広報紙「ACDEMY PRESSO」、その他の広報媒体などで理念・目的を具体化した講座募集の広報活動を行なっている。2008 年度の講座数は 386 講座、受講者数は 21,590 名と一学部匹敵する規模となった。 また、文部科学省・独立行政法人雇用能力開発機構・東京国税局・千代田区・杉並区・和歌山県新宮市・鳥取県・長野県長和町・埼玉県北本市等の国・地域自治体等との委嘱・委託・連携講座の実施、企業研修等の受託による生涯学習実施機関としての実績を積み上げ、大学開放・社会貢献に向けた幅広い講座展開を行っている。 ・長所 リバティアカデミーの規模の拡大とそれに伴う広報活動の充実は明治大学の生涯教育機関としての理念・目的を、広く周知する方策として有効である。 ・問題点	
(理念・目的等の検証) ・ センター等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況	・現状 大学の教育・研究の成果を継続的・体系的学習プログラムとして提供し、全講座で受講生にアンケートを実施して講座満足度を調査している。その結果は講師へフィードバックするとともに、次年度に開設する講座企画の参考とする。新たな取組みとして新規に開設した講座は、中間アンケートを実施し、受講生の要望を講師へ伝え、講座内容の充実に努めた。	● 検証する仕組みをリバティアカデミー運営委員会で検討し、策定する。また、本学の独自性や講座内容の見直しについても運営委員を含めた研修会で検討する。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
	・長所 受講生の要望が反映される仕組みができてい る。 ・問題点 本学らしい特色ある講座が展開できているのかを 検証する必要がある。	

2 教育研究組織

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ センターなどの組織構成と理念・目的等との関連	・現状 2005 年に責任ある教育体制を確立し、本学らしい特色ある講座の充実を図るため、「リバティアカデミー規程」を制定し、学長をアカデミー長とする運営体制を確立した。現在、全学部から選出された委員等で構成する運営委員会を中心として、教員の協力のもとにリバティアカデミー事業を推進している。更に、リバティアカデミー運営委員会の下に専門部会を立ち上げて、「質」の向上と体制強化を図る。 ・長所 学長をアカデミー長とする運営体制を整備している ・問題点 駿河台キャンパスを中心に展開しているが、和泉及び生田キャンパスでの本格的な展開に向けて組織基盤の整備を図る必要がある。	●和泉・生田キャンパスでの本格的な展開に向けて、基盤整備のための調査活動を行う。
・ センター等の組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況	・現状 リバティアカデミー運営委員会がリバティアカデミーにかかわる管理・運営に関することを審議し、必要に応じて規定を整備する。 ・長所 ・問題点 組織の妥当性を検証する仕組みはできていない。	●リバティアカデミー運営委員会にて検討し、策定する。

3 教育内容・方法等

①教育課程等

センター等の教育課程に関する目標
リバティアカデミーでは、本学教員がコーディネータとして「本学の教育・研究成果」を継続的・体系的な公開教育プ

プログラムとして産業社会・地域社会に提供すると同時に、大学の保有する様々な知的資産とその環境を広く市民に開放することを通じて「開かれた大学」としての姿を追求している。また、本学学生及び卒業生に対し、国家・公的資格試験のための学習を支援する活動を続け、卒業後の継続学習を支援することを目指している。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 教育目標を実現するための教育課程の体系的性	・現状 リバティアカデミーの事業は大別して、公開講座、産業社会及び地域社会との連携講座に分かれる。 公開講座は大学の知を広く開放するものとして「教養・文化講座」、高度職業人養成に向けて最新のビジネススキルを提供する「ビジネスプログラム」、学生の就職や資格取得を支援する「資格・実務・語学講座」からなる。産業社会及び地域社会との連携講座は、国や地方自治体等との委嘱・委託・連携講座の実施、企業研修等の受託である。 ・長所 上記の講座を通して大学開放・社会貢献に向けた幅広い講座展開を行っている。	

国家試験につながるのあるカリキュラムに関する目標

資格取得を目指す講座を設置し、本学学生の資格取得、就職活動の支援を行う。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策																																			
○ 国家試験につながるのあるカリキュラムを持つ学部・学科における、カリキュラム編成の適切性	・現状 資格取得を目指す講座を設置し、本学学生の資格取得、就職活動の支援を行う。 ・長所 資格試験は、通関士講座の全国平均比で 2.5 倍を始め、平均 1.93 倍の高い合格率を上げている。リバティアカデミーにおける資格試験講座受講者の受験者・合格者(2008 年度受験)は以下のとおり。 <table><tr><th>資格名</th><th>受験者</th><th>合格者</th><th>合格率</th><th>全国平均合格率</th></tr><tr><td>通関士</td><td>30 名*</td><td>6 名</td><td>20%</td><td>7.7%</td></tr><tr><td>総合旅行業務取扱管理者</td><td>12 名</td><td>6 名</td><td>50%</td><td>34.3%</td></tr><tr><td>教員採用試験</td><td>53 名*</td><td>24 名</td><td>45%</td><td>24% (*)</td></tr><tr><td>販売士(2級)</td><td>18 名</td><td>17 名</td><td>94.4%</td><td>45.2%</td></tr><tr><td>秘書検定(2級)</td><td>31 名</td><td>25 名</td><td>80.6%</td><td>53.%</td></tr><tr><td>秘書検定(準1</td><td>27 名</td><td>25 名</td><td>92.9%</td><td>51.8%</td></tr></table>	資格名	受験者	合格者	合格率	全国平均合格率	通関士	30 名*	6 名	20%	7.7%	総合旅行業務取扱管理者	12 名	6 名	50%	34.3%	教員採用試験	53 名*	24 名	45%	24% (*)	販売士(2級)	18 名	17 名	94.4%	45.2%	秘書検定(2級)	31 名	25 名	80.6%	53.%	秘書検定(準1	27 名	25 名	92.9%	51.8%	
資格名	受験者	合格者	合格率	全国平均合格率																																	
通関士	30 名*	6 名	20%	7.7%																																	
総合旅行業務取扱管理者	12 名	6 名	50%	34.3%																																	
教員採用試験	53 名*	24 名	45%	24% (*)																																	
販売士(2級)	18 名	17 名	94.4%	45.2%																																	
秘書検定(2級)	31 名	25 名	80.6%	53.%																																	
秘書検定(準1	27 名	25 名	92.9%	51.8%																																	

	級)				
	ビジネス能力 検定(2級)	30 名	30 名	100%	43.2%
*通関士，教員採用試験は受講者数。 * 教員採用試験の全国平均合格率は,「平成 20 年度東京都 公立学校教員採用候補者選考結果について」 http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/pr071026.htm) ・問題点					

インターンシップ及びボランティアに関する目的・目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
・ インターンシップを導入している学部・学科等における，そうしたシステムの実施の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
・ ボランティア活動を単位認定している学部・学科等における，そうしたシステムの実施の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

授業形態と単位に関する目標

受講生の継続的な学習を支援し，受講成果を認証することを目的として，2005 年度からリバティアカデミーが独自に認める「アカデミー・ポイント制度」を導入した。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における，その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性	・現状 AP(アカデミー・ポイント)制度は，全授業回数の5分の4以上を出席し，7.5時間で1AP，10AP以上を習得した受講生に独自の称号(10AP「アカデミー・マスター」～50AP「アカデミー・ドクター」まで4種類)を授与し，修了を認証する制度です。対象となる講座は教養・文化講座及び特別企画講座，ビジネスプログラムで，2007 年までの称号授与者は 350 名であったが，2008 年度には 234 名に修了証書を発行した。 ・長所 2008年度だけで234名が修了証書を得たことは継続学習する受講生が多いことを示している。この制度は受講生の学習意欲の向上に貢献しており，妥当である。 ・問題点 上記のポイント制度は，リバティアカデミーのみに通用する制度なので，今後は対外的にも認証	●リバティアカデミー運営委員会にて検討する。

	される制度についての検討が望まれる。									
単位互換，単位認定に関する目標										
点検・評価項目	現状(評価)			問題点に対する改善方策						
○ 国内外の大学等での学修の単位認定や入学前の既修得単位認定の適切性(大学設置基準第28条第2項，第29条)	・現状 ・長所 ・問題点									
[締結している単位互換協定]										
締結先大学等名称			締結年月日							
[単位互換協定に基づく単位認定の状況]										
学科	認定人数	認定単位数		一人あたり平均認定単位数						
		専門科目	専門以外							
開設授業科目における専・兼比率に関する目標										
主に教養・文化講座及び特別企画講座は本学教員を中心として知的活用を図り，ビジネスプログラムは本学教員及び実務家等が講座を担当する。本学関係者による講座は，特色あるプログラムづくりに資するものであり，本学関係者の比率を高める。										
点検・評価項目	現状(評価)			問題点に対する改善方策						
○ 全授業科目中，専任教員が担当する授業科目とその割合 ○ 兼任教員等の教育課程への関与の状況	・現状 全講座中，専任教員が関係する講座数とその割合は以下のとおり。なお，割合は専任教員数を講座数で割った数字。ひとつの講座を複数の専任教員が担当するケースは多い。 <table border="1"> <tr> <td>講座数</td> <td>専任教員数</td> <td>割合</td> </tr> <tr> <td>386</td> <td>187</td> <td>48.4%</td> </tr> </table> ・長所 専任教員が関与する割合は高い。 ・問題点			講座数	専任教員数	割合	386	187	48.4%	
講座数	専任教員数	割合								
386	187	48.4%								
社会人学生，外国人留学生等への教育上の配慮に関する目的・目標										
点検・評価項目	現状(評価)			問題点に対する改善方策						

・ 社会人学生，外国人留学生，帰国生徒に対する教育課程編成上，教育指導上の配慮	・現状 ・長所 ・問題点	
---	--	--

②教育方法等

教育効果の測定に関する目標		
受講生への講座満足度調査を実施し，次年度開設講座の指標とする。		
点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策
○ 教育上の効果を測定するための方法の有効性	・現状 受講生への講座満足度調査としてアンケートを全講座で実施している。また，集計結果を講師へフィードバックするとともに，次年度に開設する講座企画の参考としている。アンケートは講座の満足度・担当講師・講座内容・講座施設・講座料金・事務局対応・その他を5段階評価（非常に満足・満足・普通・やや不満・不満）で求め，評価の理由欄では意見を自由に記述できる方式である。 ・長所 次年度に開設する講座企画に反映することができる。 ・問題点	
○ 卒業生の進路状況	・現状 ・長所 ・問題点	
成績評価法に関する目標		
点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策
○ 厳格な成績評価を行う仕組みと成績評価法，成績評価基準の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
○ 履修科目登録の上限設定等，単位の実質化を図るための措置とその運用の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
○ 各年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方途の適切性	・現状 ・長所	

	・問題点	
履修指導に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 学生に対する履修指導の適切性 ○ 留年者に対する教育上の措置の適切性	・現状 ・問題点	
・ 科目等履修生，聴講生等に対する教育指導上の配慮の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
教育改善への組織的な取り組み（FD）に関する目的・目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み（ファカルティ・ディベロップメント(FD)）およびその有効性	・現状 ・長所 ・問題点	
○ シラバスの作成と活用状況	・現状 前期と後期に「教養・文化講座」，「ビジネスプログラム」，「資格・実務・語学講座」のパンフレットを作成し，受講生が講座申し込みをするために活用している。 ・長所 これらのパンフレット(Webサイトを含む)を参照して受講生が講座の申し込みに活用している。 ・問題点	
○ 学生による授業評価の活用状況	・現状 全講座で受講生からアンケートを実施し，集計結果を講師へフィードバックするとともに，次年度に開設する講座企画の参考としている。 ・長所 次年度に開設する講座企画に反映することができる。 ・問題点	

・卒業生に対し、 在学時の教育内 容・方法を評価させ る仕組みの導入状 況	・現状 ・長所 ・問題点	
・教育評価の成果 を教育改善に直結 させるシステムの確 立状況とその運用 の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

授業形態と授業方法に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 授業形態と授業 方法の適切性、妥 当性とその教育指 導上の有効性	・現状 ・長所 ・問題点	
○ 多様なマルチメ ディアを活用した授 業の導入状況とそ の運用の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
○ 「遠隔授業」によ る授業科目を単位 認定している大学・ 学部等における、そ うした制度の運用の 適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

③国内外との教育研究交流 3

国内外との教育研究交流に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 国際化への対応 と国際交流の推進 に関する基本方針 の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
・ 国際レベルでの 教育研究交流を緊 密化させるための 措置の適切性	・現状 ・長所	

・国内外の大学との組織的な教育研究交流の状況	・問題点	
------------------------	------	--

4 受講生の受け入れ

(1) 受講生の受け入れ

受講生の受け入れに関する目標														
リバティアカデミーは、年齢、性別、学歴等を問わず、誰でも入会ができ、多様な世代からの受け入れを目指す。														
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策												
(受講生募集、選抜方法) ○ 学生募集の方法、入学者選抜方法、殊に複数の入学者選抜方法を採用している場合には、その各々の選抜方法の位置づけ等の適切性	・現状 リバティアカデミーは会員制であるが、会員の登録は、年齢、性別、学歴等を問わず、誰でも入会できる。年2回、講座の募集を行っている。 過去3年度の会員数と受講者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>会員数</th><th>受講者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006 年度</td><td>14,150 名</td><td>20,002 名</td></tr> <tr> <td>2007 年度</td><td>15,059 名</td><td>22,374 名</td></tr> <tr> <td>2008 年度</td><td>15,875 名</td><td>21,590 名</td></tr> </tbody> </table> ・長所 講座内容の充実とともに、誰でも入会できることが会員数の増加につながり、適切である。 ・問題点		会員数	受講者数	2006 年度	14,150 名	20,002 名	2007 年度	15,059 名	22,374 名	2008 年度	15,875 名	21,590 名	
	会員数	受講者数												
2006 年度	14,150 名	20,002 名												
2007 年度	15,059 名	22,374 名												
2008 年度	15,875 名	21,590 名												
(入学者受け入れ方針等) ○ 入学者受け入れ方針と大学・学部等の理念・目的・教育目標との関係 ○ 入学者受け入れ方針と入学者選抜方法、カリキュラムとの関係	・現状 ・長所 ・問題点													
(入学者選抜の仕組み) ○ 入学者選抜試験実施体制の適切性 ○ 入学者選抜基準の透明性 ○ 入学者選抜とその結果の公正性・妥当性を確保するシステムの導入状況	・現状 ・長所 ・問題点													
(入学者選抜方法の検証)	・現状													

○ 各年の入試問題を検証する仕組みの導入状況 ・ 入学者選抜方法の適切性について、学外関係者などから意見聴取を行う仕組みの導入状況	・ 長所 ・ 問題点	
(入学者選抜における高・大の連携) ・ 推薦入学における、高等学校との関係の適切性 ・ 高校生に対して行う進路相談・指導、その他これに関わる情報伝達の適切性	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	
(社会人の受け入れ) ・ 社会人学生の受け入れ状況	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	
(科目等履修生・聴講生等) ・ 科目等履修生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	
(外国人留学生の受け入れ) ・ 留学生の本国地での大学教育、大学前教育の内容・質の認定の上に立った学生受け入れ・単位認定の適切性	・ 現状 受け入れ数については、下記の図を参照のこと。 ・ 長所 ・ 問題点	
(定員管理) ○ 学生収容定員と在籍学生数、(編)入学定員と(編)入学者数の比率の適切性 ○ 著しい欠員ないし定員超過が恒常的に生じている学部における対応策とその有効性	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	

5 学生生活（略）

6 研究環境（略）

7 社会貢献

社会貢献に関する目標

生涯教育社会の到来によるライフスタイルの変化、地域社会・ビジネス社会へ貢献する開かれた大学の展開が求められているなか、社会人教育を目指したリバティアカデミーによる生涯教育の展開や社会人教育の場として地域社会との連携を図る。

また、本学の持つエネルギーを大学内の教育・研究だけでなく、可能なかぎり地域社会に提供するため、大学と各地域・自治体との連携を推進する。

さらに、大学の保有する知的資産とその環境を広く市民に開放することを通じて、開かれた大学として社会に貢献する。

点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策																																	
（社会への貢献） ○ 社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度	・現状 千葉県成田市、長野県飯田市・長和町、和歌山県新宮市、鳥取県、埼玉県北本市、群馬県嬲恋村等の自治体との提携講座や地域・団体・企業等との共催・後援事業・講座を実施し、地域社会や経済社会との交流、市民への知の還元を行うとともに、三鷹ネットワーク大学、秋葉原サテライトキャンパスにおいて、地域社会と密着した講座展開を行った。独立行政法人雇用能力開発機構の委託訓練講座、企業・団体からの寄付講座・受託研修も実施し、人材育成も行っている。 2008年度に実施した公開講座の開設状況は以下のとおりである。 （※）複数回実施の講座については、1回あたりの受講者数を示す。 団体・企業等の共済・後援事業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>講座名</th><th>回数</th><th>受講者数（※）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会保険労務士総合研究機構協力講座 事例で学ぶこれからの人事・経営労務</td><td>8回</td><td>32名</td></tr> <tr> <td>社会保険労務士総合研究機構協力講座 事例で学ぶこれからの人事・経営労務</td><td>7回</td><td>43名</td></tr> <tr> <td>社団法人日本経営士会連合講座 企業経営の臨床学</td><td>3回</td><td>48名</td></tr> <tr> <td>読売新聞後援 社内キャリアのツボ</td><td>1回</td><td>80名</td></tr> </tbody> </table> 寄付講座 <table border="1"> <thead> <tr> <th>講座名</th><th>回数</th><th>受講者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連合駿台会寄付講座 明大出身社長に、経営の今を聴く</td><td>1回</td><td>116名</td></tr> <tr> <td>連合駿台会寄付講座 明大出身社長に、資本市場の今を聴く</td><td>1回</td><td>152名</td></tr> <tr> <td>校友会寄付講座平成塾21 競馬から見た日本社会の構造</td><td>1回</td><td>226名</td></tr> <tr> <td>校友会寄付講座 園芸学会フォーラム 食と農が都市と農村をつなぐ</td><td>1回</td><td>244名</td></tr> <tr> <td>大同生命保険㈱寄付講座 中小企業の経営革新セミナー</td><td>8回</td><td>97名</td></tr> </tbody> </table>	講座名	回数	受講者数（※）	社会保険労務士総合研究機構協力講座 事例で学ぶこれからの人事・経営労務	8回	32名	社会保険労務士総合研究機構協力講座 事例で学ぶこれからの人事・経営労務	7回	43名	社団法人日本経営士会連合講座 企業経営の臨床学	3回	48名	読売新聞後援 社内キャリアのツボ	1回	80名	講座名	回数	受講者数	連合駿台会寄付講座 明大出身社長に、経営の今を聴く	1回	116名	連合駿台会寄付講座 明大出身社長に、資本市場の今を聴く	1回	152名	校友会寄付講座平成塾21 競馬から見た日本社会の構造	1回	226名	校友会寄付講座 園芸学会フォーラム 食と農が都市と農村をつなぐ	1回	244名	大同生命保険㈱寄付講座 中小企業の経営革新セミナー	8回	97名	・大学の社会的使命を果たすために、今後も産業社会、地域社会との交流を積極的に推進する。とりわけ「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」で関係した自治体とは講師派遣等により連携をすすめる。また、学内各機関と連携を図り、社会貢献への主たる窓口としての機能を発揮していく。
講座名	回数	受講者数（※）																																	
社会保険労務士総合研究機構協力講座 事例で学ぶこれからの人事・経営労務	8回	32名																																	
社会保険労務士総合研究機構協力講座 事例で学ぶこれからの人事・経営労務	7回	43名																																	
社団法人日本経営士会連合講座 企業経営の臨床学	3回	48名																																	
読売新聞後援 社内キャリアのツボ	1回	80名																																	
講座名	回数	受講者数																																	
連合駿台会寄付講座 明大出身社長に、経営の今を聴く	1回	116名																																	
連合駿台会寄付講座 明大出身社長に、資本市場の今を聴く	1回	152名																																	
校友会寄付講座平成塾21 競馬から見た日本社会の構造	1回	226名																																	
校友会寄付講座 園芸学会フォーラム 食と農が都市と農村をつなぐ	1回	244名																																	
大同生命保険㈱寄付講座 中小企業の経営革新セミナー	8回	97名																																	

(株)UL JAPAN寄付講座 製品の安全学入門	6回	57 名
(株)UL JAPAN寄付講座 機械安全とリスクアセスメント	6回	44 名
ハートフォード生命保険(株) 自分年金作りのための田園型投資	7回	126 名

企業等からの委託研修

委託先	回数	受講者数
エプソン販売(株)	54 回	223 名
三幸製菓(株)	33 回	154 名
キヤノンマーケティングジャパン(株)	4回	22 名
特定非営利活動法人地域と協同の研究センター	13 日	30 名
東京国税局	30 回	191 名
パルシステム連合会 平成塾 21	3回	22 名

国からの委託・委嘱事業

委託先	回数	受講者数
独立行政法人雇用能力開発機構 大学等委託訓練	278 日	150 名
図書館司書講習	39 日	118 名
社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム	44 回	159 名

地方自治体との連携講座(共催・後援を含む)

講座名	回数	受講者数
千代田区後援 夏季源氏物語公開講座	4回	302 名
杉並区教育委員会共催 太宰治作品精説―罪誕生の時刻にあり―	4回	103 名
京都府亀岡市連携講座 戦国武将「明智光秀」再考	1回	141 名
鳥取県連携講座 三徳山の歴史的価値を読み解く	3回	48 名
鳥取県連携講座 弥生の鳥取を読み解く	3回	77 名
鳥取県連携講座 鳥取フィールドワーク 鳥取県の古代を訪ねる旅	1回	14 名
和歌山県観光連盟連携講座 なぜ人は旅に出るのか その 5	5回	50 名

	和歌山県新宮市連携 第 2 回熊野学フォー ラム	1回	439 名
	東紀州観光まちづくり 公社連携講座 遙か なる海の旅路 聖地・ 熊野へ	3回	64 名
	東紀州観光まちづくり 公社共催 フィールド ワーク 聖地・熊野へ の旅	1回	15 名
	明治大学・成田社会 人大学 国際社会課 程, 地域社会課程, 緑 地環境課程	3コース 36 回	250 名
	飯田産業技術大学 商品のパッケージ デザインネーミング 電磁波概論	2コース 5回	23 名
	明治大学・新宮市民 講座 人文講座, 経済 講座	2コース 4回	86 名
	明治大学・新宮市民 オープン講座	1回	53 名
	市民大学きたもと学苑 オープン講座 明治 大学公開講座	4回	107 名
	長和町民大学	5回	49 名
	孺恋村・明治大学連 携事業 講演会安心・ 安全ワールドを創る	1回	80 名
	ディスタンス・ラーニングプログラム		
	講座名	回数	受講者数
	ヨーク・セント・ジョン大 学大学院(英国)国際 学修士号取得課程		19 名
○ 公開講座の開 設状況とこれへの 市民の参加の状 況	・長所 教育・研究の成果を社会に還元する取組みによって, 開 かれた大学として強みを発揮している。 ・問題点 産業社会, 地域社会との交流により学習機会の提供を増 やしていかなければならない。そのためには多くの教員の協 力が必要である。 ・現状 講座等の開設状況は, 2008 年度は 386 講座(2007 年度 は 342 講座), e ゼミナール 13 となっている。また, 受講者 総数は 21,590 名(2007 年度は 22,374 名), 会員数は 15,875 名(2007 年度は 15,059 名)で, そのうち 1 万人(約 63%)が社会人である。		
	・受講生へのアンケート調査を全 講座で実施し, 次年度開設講座 の指標としているが, 生涯学習機 能をより一層果たすために各種ニ ーズ調査を実施するとともに, 運		

○ 教育研究の成果の社会への還元状況	・長所 学生からビジネスパーソン、シニア、主婦に至るまで多様な世代の多様なニーズに対応している。 ・問題点 講座数が増加しているものの、受講生のニーズに即した講座となっているか、講座の広報が適切に行われているのかなどの検証が必要である。また、大学公開講座の使命は社会のニーズに対応するだけではなく、学内の知財を広く提供し、ニーズを創りだすことも求められている。講座の内容を必要人に的確に周知するための広報活動の充実が必要である。 ・現状 本学が長い歴史の中で培ってきた教育・研究の成果を基盤に、大学がもつ人材と施設・設備を社会に公開している。受講希望者に対しては、特に資格要件を設けず、生涯にわたって豊かな知的生活の実現、あるいは職業能力を高めようとする、あらゆる人々に門戸を開放し、広く学習機会を提供している。受講者は1999年設立時の2,081名から2008年度には21,590名と一学部以上の規模にまで達しており、教育研究上の成果を市民還元することの一定の責務を果たしている。 また、2007年度からの文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育促進プログラム」は、社会人を対象に学び直しをあきらめていたり、その必要性に気づいていない人達の潜在的な学び直しニーズを掘り起こして人材育成を行うことにより、少子高齢化が課題になっている地方の就労人口拡大や生産性向上を目指すことを目的としている。事業期間3年間で、2008年度は和歌山県新宮市と鳥取県で実施した。 ・長所 学長をアカデミー長とする教学協力体制が確立し、全学体制で社会貢献に取り組んでいる。 ・問題点 あらゆる人々に門戸を開放し、広く学習機会を提供しているものの、事業展開が一部の地域に限られている。	営委員会に設置した専門部会において、ニーズに則した講座企画を推進する。 ・本学の教育・研究の成果を社会に還元することが、リバティアカデミーの目的でもあり、今後も本学の知的資産を活用し、市民や社会のニーズに適応した講座を開設する。地域社会との連携については、従来の事業を継続するとともに、さらに、本学の教育・研究の優位性を活かした地域向け生涯学習プログラムの提供、講師派遣、IT技術を応用した遠隔講義等により市民の期待に引き続き応えていく。
---------------------------	---	---

[公開講座の開設状況]

※シンポジウム、講演会は含めない。公開講座とは、授業に匹敵する学習機会を提供するもの。

年度	年間講座数	募集人員	参加者	平均受講者数
2006 年	319		20,002 名	62.7
2007 年	342		22,374 名	65.4
2008 年	386		21,590 名	55.9

○ 国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況	・現状 2004年度の「地域産業活性化プロジェクト」の一環の箱根地域の活性化を始め、長野県飯田市とも連携し、ITを活用	● 創立者と関係のある自治体に市民講座を開設するなど地方自治体と協力し、地域活性化への
-------------------------------	--	--

	した展開により、地場産業関連講座を開設している。2005 年度には鳥取県との連携による自治体職員向け講座及び地域活性・イメージアップに繋がる講座の実施、和歌山県那智勝浦町との連携による講座実施を行った。 2006 年度は和歌山県新宮市との連携協力に関する協定書締結に基づき、新宮市民大学を開設した。 2007 年度は新たに埼玉県北本市との市民講座、長野県長和町との連携による長和町民大学などを開設した。 2008 年度に文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育促進プログラム」を実施した鳥取県とは、「明治大学・鳥取大学・鳥取県との連携協力に関する協定書」の締結、2007 年度に実施した群馬県嬬恋村とは、「群馬県嬬恋村と明治大学との連携協力に関する協定書」の締結として結実した。 (実績については、2008 年度に実施した公開講座 地方自治体との連携講座参照) ・長所 特定の地域に限定せずに地域が抱えるニーズに対応できる。 ・問題点 本学の教育・研究の成果を還元することを目的とし、特に本学創立者と関係のある地方自治体に対して寄与することが必要である。	貢献、行政施策等への支援を果たしていく。
○ 大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用の状況とその有効性	・現状 ・長所 ・問題点	
(企業等との連携) ・企業と連携して社会人向けの教育プログラムを運用している大学・学部における、そうした教育プログラムの内容とその運用の適切性 ・寄付講座、寄付研究部門の開設状況 ・大学と大学以外の社会的組織体との教育研究上の連携策 ・企業等との共同研究、受託研究の規模・体制・推進の状況	・現状 ① 寄付講座の開設 リバティアカデミーにおいて、社会貢献を目的とした一般向けの公開寄付講座を開設している。2002 年度から継続して大同生命保険(株)による寄付講座「中小企業の経営革新セミナー」を開講し、2008 年度には(株)UL Japan 寄付講座「製品の安全学入門」「機械安全とリスクアセスメント」、ハートフォード生命保険(株)寄付講座「自分年金作りのための田園型投資」を開設した。また、校友会及び連合駿台会からの寄付講座を実施した。(実績については、2008 年度実施した公開講座 寄付講座参照) ②大学と大学以外の社会的組織体との連携 ア. NPO地域と協同の研究センターからの職員研修を受託し、中堅職員研修「コープマネジメントスクール」、幹部職員研修「コープカレッジ」を開講した。 イ. 独立行政法人雇用能力開発機構大学等委託訓練を受託し、「戦略マネジメント実践コース」を含む全6コースを開講し、通算で 41 コースを実施した。 ウ. 明治大学・成田社会人大学において、成田市の生涯学習事業として市民向けに「緑地環境課程」「国際社会課程」「地域社会課程」の3コースを開講した。 エ. 鳥取県との連携講座を実施した。	・今後とも継続と新規開拓に取り組む。また、校友会等OBとの連携をより強化するため、実施講座の情報発信(広報活動)を行う。

※以下、知財機構のみ対象 ・特許・技術移転を促進する体制の整備・推進状況 ・「産学連携に伴う利害関係の衝突」に備えた産学連携にかかるルールの特化の状況 ・発明取り扱い規程、著作権規程等、知的資産に関わる権利規程の特化の状況	オ. 和歌山県新宮市連携 第2回熊野学フォーラムを実施した。 カ. 和歌山県観光連盟連携講座を実施した。 キ. 東紀州観光まちづくり公社連携講座、フィールドワークを実施した。 ク. 京都府亀岡市連携講座、フィールドワークを実施した。 ケ. 文部科学省委嘱の「図書館司書講習」を実施した。 コ. 埼玉県北本市「明治大学公開講座」を実施した。 サ. 婦恋村・明治大学連携事業 講演会を実施した。 シ. エプソン販売(株)「ESJ マーケティング・カレッジ」、三幸製菓(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、パルシステム連合会の企業研修を実施した。 ス. 国税局職員専門研修を実施した。 (実績については、2008 年度に実施した公開講座 団体・企業等との共催・後援事業参照) ・長所 ・問題点 独立行政法人雇用能力開発機構の大学等委託訓練が今年度限りとなる。新たな事業展開を構築することが課題である。	
--	---	--

8 教員組織 (略)

9 事務組織

事務組織に関する目標		
リバティアカデミーの理念や目的を達成するための事業等を企画・立案・運営すること。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(事務組織の構成) ○ 事務組織の構成と人員配置	・現状 リバティアカデミーの運営にかかわる事務組織は学術・社会連携部社会連携事務室エクステンショングループが担当する。専任職員6名(管理職を含む。うち1名は育児休暇中)が事業企画を担当し、派遣職員3名がサポートする。講座運営は業務委託で対応している。 また、文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」は専任職員及び派遣職員が対応している。 ・長所 専任職員が企画・立案し、運営を業務委託する態勢がうまく機能している。 ・問題点 近年増加する自治体連携を推進していくことが求められており、専任職員の増員と地域連携を担う新たな組織が必要である。	・大学運営を経営面から支える事業と社会貢献を目的に行なう事業とに再編成することが必要であり、「年度計画書」等に基づき改善を図る。
(事務組織と教学組)	・現状	

組織との関係) ○ 事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況 ○ 大学運営における、事務組織と教学組織との有機的一体性を確保させる方途の適切性	学長をアカデミー長とする運営体制が確立しており、全学部から選出された委員等で構成する運営委員会を中心にリバティアカデミー事業を推進している。事務組織は運営委員会をサポートし、教学組織と連携協力関係を確立している。 また、2008年度には社会連携担当副学長のもとに地域連携事業が進められた。 ・長所 教員と職員が協力して事業を推進している。 ・問題点	
(事務組織の役割) ○ 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性 ○ 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性 ○ 国際交流等の専門業務への事務組織の関与の状況 ○ 大学運営を経営面から支えるような事務機能の確立状況	・現状 大学の教育・研究成果の社会還元として公開講義や生涯学習事業を積極的に展開するため、国・地方自治体・企業・団体等との連携事業を教員と協力して企画・立案し、実施している。 ・長所 リバティアカデミーは文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の事業主体として大きな成果を収めた。 ・問題点 リバティアカデミーの事業には、本大学が実施している生涯学習事業と自治体等からの委託事業「社会連携事業」があり、前者は大学運営を財政面から支える機能を有しているが、後者は社会貢献という位置づけで行なわれることが望ましい。	・大学運営を経営面から支える事業と社会貢献を目的に行なう事業とに再編成することが必要であり、「年度計画書」等に基づき改善を図る。
(スタッフ・ディベロップメント(SD)) ○ 事務職員の研修機会の確保の状況とその有効性 ・事務組織の専門性の向上と業務の効率化を図るための方途の適切性	・現状 2008年度専任職員と業務委託を含めた全職員を対象に、利用者対応の向上を目的とした研修を実施した。 ・長所 リバティアカデミーが実施する講座を活用することができる。 ・問題点 研修の機会を確保することは、通常業務のなかでは時間と人的余裕が乏しいなかで厳しい。	●業務の専門性の向上を図るため、継続して研修の機会を設ける。

10 施設・設備等

施設・設備に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(施設・設備等の整備) ○ センター等の目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性 ○ 教育の用に供する情報処理機器などの整備状況 ・ 記念施設・保存建物の管理・活用状況	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	
(先端的な設備・装置) ・ 先端的な教育研究や基礎的研究への装備面の整備の適切性 ・ 先端的教育の用に供する機械・設備の整備・利用の際の、他の大学院、大学共同利用機関、附置研究所等との連携関係の適切性	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	
(キャンパス・アメニティ等) ○ キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況 ○ 「学生のための生活の場」の整備状況 ○ 大学周辺の「環境」への配慮の状況	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	
(利用上の配慮) ○ 施設・設備面における障がい者への配慮の状況	・ 現状 施設面では、障害者用の駐車場、車椅子用手洗い等を設置している。 ・ 長所 障害者の受講に伴い、介助するボランティアの無料参加を認めるなど、柔軟な対応をしている。 ・ 問題点	
(組織・管理体制) ○ 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況 ○ 施設・設備の衛	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	

生・安全を確保するためのシステムの整備状況		
-----------------------	--	--

11 図書および電子媒体等（略）

12 管理運営

管理運営に関する目標		
本大学における教育・研究の成果を公開する継続的・体系的学習プログラムを、本大学の学生及び卒業生並びに広く社会一般に提供し、生涯にわたる継続的な学習の支援を行うとともに、資格取得等職業能力の再開発及び向上を図るための教育活動を行うことにより、大学の開放及び生涯学習事業の推進に寄与することを目的として、リバティアカデミー運営委員会を設置している。		
点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策
（運営委員会等） ○ 委員会の役割とその活動の適切性 ○ 運営委員会とセンター長等との間の連携協力関係および機能分担の適切性 ○ センター等と評議会、大学協議会などの全学的審議機関間の連携及び役割分担の適切性	・現状 リバティアカデミー運営委員会は、リバティアカデミー業務を総括し、リバティアカデミー長を議長として運営している。 ・長所 リバティアカデミー長は学長が兼務し、副アカデミー長2名がリバティアカデミー長を補佐する体制となっている。 ・問題点	
（センター長等の権限と選任手続） ○ 選任手続の適切性、妥当性 ○ 権限の内容とその行使の適切性 ○ 補佐体制の構成と活動の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
（意思決定） ○ 意思決定プロセスの確立状況とその運用の適切性	・現状 リバティアカデミーの事業計画、管理運営を審議するため、リバティアカデミー運営委員会が設置されている。 ・長所 運営委員は、すべての学部から選出された委員等で構成されている。 ・問題点	
（管理運営への学	・現状	

外有識者の関与) ・ 管理運営に対する学外有識者の関与の状況とその有効性	リバティアカデミーの管理運営を審議するためリバティアカデミー運営委員会が設置され、学外有識者2名が参画している。 ・長所 幅広い議論をするうえで、学外有識者の参画は有効である。 ・問題点 ・	
(法令遵守等) ○ 関連法令等および学内規定の遵守 ○ 個人情報の保護や不正行為の防止等に関する取り組みや制度、審査体制の整備状況	・現状 リバティアカデミーの受講生に関する個人情報保護について、学校法人明治大学個人情報保護方針に基づき、適正に取り扱っている。 ・長所 受講生などの個人情報を取得する際には、書面にてその利用目的を明示するとともに、リバティアカデミーホームページ上にも公表している。 ・問題点	

13 財務（略）

14 自己点検・評価

自己点検・評価に関する目標		
生涯学習事業を推進するため、組織や活動についての点検・評価を不断に行い、問題点を改善することを目標とする。		
点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策
(自己点検・評価) ○ 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性 ○ 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性	・現状 明治大学自己点検・評価規程に基づき、自己・点検評価報告書を作成、提出している。 また、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」では評価委員会を組織し、毎年各プロジェクトの活動を評価する報告書を作成、提出している。 ・長所 リバティアカデミーの事業達成度を知るための指標としている。 ・問題点	
(自己点検・評価に対する学外者による検証) ○ 自己点検・評価結果の客観性・妥当性を確保するための措置の適切性 ・ 外部評価を行う	・現状 自己・点検評価に対する評価委員会が設置されていない。 ・長所 ・問題点 自己・点検評価に対する評価委員会が設置され	●リバティアカデミー運営委員会で検討し、設置する。

際の、外部評価者の選任手続の適切性 外部評価結果の活用状況	ていないので、評価委員会を設置する。	
(大学に対する社会的評価等) - センター等の社会的評価の活用状況 - 自大学の特色や「活力」の検証状況	・現状 リバティアカデミーの社会的評価は講座や受講生の増加によって知ることができる。また、2007年度から実施した「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」は、「明治大学・鳥取大学・鳥取県との連携協力に関する協定書」、「群馬県嬭恋村と明治大学との連携協力に関する協定書」を締結するなど、連携する自治体からも高く評価されている。なお、この学び直しのプログラムは新聞報道でも数多く掲載された。 ・長所 ・問題点 社会的評価の周知については、学内外においても十分とはいえない。	●広報活動を強化する。今年度は大学ホームページ及び広報紙を通じて周知する方策を検討する。
(大学に対する指摘事項および勧告などに対する対応) ○ 文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応	・現状 2007年度に大学基準協会による認証評価を受け、社会貢献としてリバティアカデミーは次の評価を受けた。「地域社会・自治体との連携にも力を注いでおり、目的・目標をほぼ達成している。リバティアカデミーでは、公開講座や自治体への政策形成の寄与などにより、地域社会・自治体との連携をとり、社会に貢献している。」 ・長所 総合的な生涯学習の実施環境として設立されたリバティアカデミーは、公開講座等を通じて市民に学習機会を数多く提供している。 ・問題点	

15 情報公開・説明責任

情報公開・説明責任に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(財政公開) ○ 財政公開の状況とその内容・方法の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

(情報公開請求への対応) ○ 情報公開請求への状況対応とその適切性	・現状 毎年度、大学HP上に「大学評価」として評価結果を公開している。 ・長所 適切であるといえる。 ・問題点	
(点検・評価結果の発信) ○ 自己点検・評価結果の学内外への発信状況とその適切性 ○ 外部評価結果の学内外への発信状況とその適切性	・現状 大学認証評価結果を大学HP上に「大学評価」として公開している。 ・長所 適切であるといえる。 ・問題点	